

## 「障害」 「障がい」 「障碍」

### 1. はじめに

「しょうがい」とパソコンやスマートフォンで打ち込むと、予測変換にはたくさんの「しょうがい」が出てくる。その中でも「障害」「障がい」「障碍」は文献によって表記が異なったり、人によって使用する感じが異なったりする。私たちはどの「しょうがい」をどう使うべきか、場合によって使い分けるべきなのかということについて考える。

### 2. 「障害」「障がい」「障碍」

#### ○「障害」

一般的に広く使われている。「害」という字の捉え方に様々な意見はあるものの、広く使用されている漢字である。

#### ○「障がい」

障害者に対する偏見や差別をなくすための1つの方法として表記される。

#### ○「障碍」

「妨げ」という意味である「碍」という字を使うことで、社会的生活の妨げとなるハンデを持つ人という意味を持たせるために使用される漢字。「碍」が常用漢字ではないため一般的な表記ではない。

実際に調べると「障害」の「害」の文字は「障害」はその人自身ではなく、社会の側にある、障害者＝社会にある障害と向き合っている人たち、と捉えているからという意見や「障害」という文字が一般的に浸透しているため「害」という字に不都合はないという考えも多い。

「障がい」という文字については今回のコラム作成でWordを使用したがる、その都度赤い波線がひかれるなどまだ世間一般的に浸透していないと考えられ、使い勝手が悪いと感じた。

「障碍」という文字は意味として適切であるが、普段あまり使わないような字であることによって使用しづらい部分があると感じた。

### 3. まとめ

「しょうがい」の文字にはそれぞれ賛成意見や反対意見があり、どの文字においても不適切だと捉えられているわけではないことが分かった。私個人の意見として、一般的に使用されているのは「障害」という文字のため、「害」という文字の意味を正しく把握できていれば「障害」という文字でも問題ないと感じた。ただ、例えば教員として子どもたちに教える際には「害」の意味について正しく教えたり、子どもたちが文字だけを見て誤解を生まないように「障がい」という表記にしたり、文字によって差別や偏見が生まれないよ

うにする必要があると感じた。

#### 4. 参考文献

TRYZE MEDIA 「障害者、障碍者、障がい者」の違いは？漢字を分ける理由と経緯  
<https://tryze.biz/media/column/word-difference/>

内閣府障害者施策ホームページ 平成22年5月10日推進会議資料5『障害』の表記について

[https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/8783099/www8.cao.go.jp/shougai/suishin/kaikaku/s\\_kaigi/k\\_10/pdf/s5.pdf](https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/8783099/www8.cao.go.jp/shougai/suishin/kaikaku/s_kaigi/k_10/pdf/s5.pdf)